

数学Ⅱ・B シラバス

科目名	学年	単位数	使用教科書	使用副教材
数学Ⅱ	2	4	改訂版 高等学校 数学Ⅱ (数研出版)	改訂版 チャート式解法と演習 数学Ⅱ (数研出版) 改訂版 4プロセス 数学Ⅱ (数研出版)
数学B	2	2	改訂版 高等学校 数学B (数研出版)	改訂版 チャート式解法と演習 数学B (数研出版) 改訂版 4プロセス 数学B (数研出版)

1 科目の目標と評価の観点

数学Ⅱ

目標	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えについて理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を養うとともに，それらを活用する態度を育てる。			
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能技術を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。

数学B

目標	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測について理解させ，基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り，事象を数学的に考察し表現する能力を伸ばすとともに，それらを活用する態度を育てる。			
	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。

2 学習計画と観点別評価規準

学期	月	学習内容	学習内容	観点別評価規準	教科書該当箇所	考查範囲		
		章名 (配当時間) 学習のねらい	節名 (配当時間) 項目名 (配当時間)					
1 学期	4 月	第1章 式と証明 (16)  整式の乗法・除法及び分数式の四則計算について理解できるようにするとともに，等式や不等式が成り立つ	第1節 式と計算 (9)	[関]：関心・意欲・態度 [考]：数学的な見方や考え方 [技]：数学的な技能 [知]：知識・理解				
			1. 3次式の展開と因数分解 (1)				3次式の展開の公式を利用することができる。[知]	例1,2 練習1,3
							3次式の因数分解の公式を利用することができる。[知]	例3 練習4
							式の形に着目して変形し，3次式の因数分解の公式を適用する形にすることができる。[技] [知]	例4 練習5
			因数分解の一意性に興味をもち，検算などに利用しようとする態度がある。[関]	例4 練習5				

数学Ⅱ・B シラバス

ことを証明できるようにする。	2. 二項定理 (2)	$(a+b)^n$ の展開式からパスカルの三角形を導き、パスカルの三角形の性質を理解している。[知]	練習 6, 7
	研究 $(a+b+c)^n$ の展開式	二項定理をパスカルの三角形と結びつけて考えることができる。[考]	p. 9, 10
		二項定理を利用して、展開式やその項の係数を求めることができる。[知]	例 5 例題 1 練習 8, 9
		二項定理を等式の証明に活用することができる。[技]	練習 10
		二項定理を 3 項の場合に適用することで、展開式の係数を求めることができる。[知]	応用例題 1 練習 11
		$(a+b+c)^n$ を展開したときの $a^p b^q c^r$ の係数がどうなるかを、興味をもって調べようとする。[関]	p. 12 (研究) 例 1, 練習 1
		3. 整式の割り算 (2)	整式の割り算の計算方法を理解している。[知]
	4. 分数式とその計算 (1.5)	整式の割り算の結果を等式で表して考えることができる。[考]	例題 3 練習 13
		割り算で成り立つ等式を理解し、利用することができる。[技] [知]	例題 3 練習 13
		2 種類の文字を含む整式の割り算に興味を示し、具体的な問題に取り組もうとする。[関]	応用例題 2 練習 14
		2 種類以上の文字を含む整式の割り算を、1 つの文字に着目することで、1 文字の場合と同様に考えることができる。[考]	応用例題 2 練習 14
		2 種類以上の文字を含む整式の割り算を行うことができる。[知]	応用例題 2 練習 14
		分数式を分数と同じように約分、通分して扱うことができる。[考]	p. 16~18
	5. 恒等式 (2)	分数式の約分、四則計算ができる。[知]	例 6~9 練習 15~18
		分数式の計算の結果を、既約分数式または整式の形にして表すことができる。[技]	例 7~9 練習 16~18
		繁分数式を分数式の性質を用いて処理することに意欲を示す。[関]	例 10 練習 19
		繁分数式を簡単にすることができる。[知]	例 10 練習 19
		恒等式と方程式の違いを理解している。[知]	例 11 練習 20
	研究 代入による恒等式の係数決定	恒等式における文字の役割の違いを認識できる。[考]	p. 20
		恒等式となるように、係数を決定することができる。[知]	例題 4, 5 練習 21, 22
		分数式の恒等式の分母を払った等式が恒等式であることを利用できる。[技]	例題 5 練習 22
		恒等式の係数を決定する際に、係数比較法と数値代入法とを、比較して考察しようとする。[関]	p. 21 (研究) 練習 1
	問題 (0.5)		p. 22
<b>第 2 節 等式・不等式の証明 (5)</b>			
6. 等式の証明 (1.5)	恒等式 $A=B$ の証明を、適切な方法で行うことができる。[技] [知]	例題 6 練習 23	
	$A=B$ と $A-B=0$ が同値であることを利用して、等式を証明することができる。[考]	例題 7 練習 24	
	与えられた条件式の利用方法を考え、等式を証明することができる。[考] [知]	例題 7 練習 24, 25	
	比例式を $=k$ とおいて処理することができる。[技]	応用例題 3 練習 26	
	比例式を含む等式の証明を通じて、加比の理に興味をもち、考察しようとする。[関]	p. 25	
7. 不等式の証明 (3)	実数の大小関係の基本性質に基づいて、自明な不等式を証明することができる。[技]	例 12	

		不等式 $A > B$ を証明するとき、 $A - B > 0$ を示してもよいことを利用して、不等式を証明することができる。〔技〕	例 13, 例題 8 練習 27, 28	
		不等式の証明に実数の性質を利用できるように、式変形を考えることができる。〔考〕	例 14, 例題 9 練習 29	
		実数の性質を利用して、不等式を証明することができる。〔知〕	例 14, 例題 9 練習 29	
		不等式の証明で、等号の成り立つ場合について考察できる。〔技〕	例 14 例題 9, 11 応用例題 4 練習 29, 31, 32	
		同値な不等式を証明することで、もとの不等式を証明することができる。〔考〕	例題 10 練習 30	
		平方の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。〔知〕	例題 10 練習 30	
		絶対値の性質を利用して、絶対値を含む不等式を証明することができる。〔知〕	応用例題 4 練習 31	
		不等式の証明を通じて、三角不等式に興味・関心をもち、それを利用しようとする。〔関〕	応用例題 4 練習 31	
		相加平均・相乗平均の大小関係を利用して、不等式を証明することができる。〔知〕	例題 11 練習 32	
		問題 (0.5)	p. 32	
	章末問題 (2)	p. 33, 34		
5 月	<b>第 2 章 複素数と方程式 (14)</b>  方程式についての理解を深め、数の範囲を複素数まで拡張して二次方程式を解くこと及び因数分解を利用して高次方程式を解くことができるようにする。	<b>第 1 節 複素数と 2 次方程式の解 (8.5)</b>		
		1. 複素数とその計算 (2)	2 次方程式が常に解をもつように考えられた複素数に興味・関心を示し、考察しようとする。〔関〕	p. 36
			複素数の表記を理解し、複素数 $a + 0i$ を実数 $a$ と同一視できる。〔考〕	p. 36
			複素数、複素数の相等の定義を理解している。〔知〕	例 1, 例題 1 練習 1, 2
			複素数の四則計算ができる。〔知〕	例 2, 3, 5 練習 3, 4, 6
			複素数の除法の計算では、分母と分子に共役な複素数を掛ければよいことを理解している。〔技〕	例 5 練習 6
			複素数の四則計算の結果は複素数であることを理解している。〔考〕	p. 39
			負の数の平方根を理解している。〔知〕	例 6, 7 練習 7, 8
			負の数の平方根を含む式の計算を、 $i$ を用いて処理することができる。〔技〕	例 6, 7 練習 7, 8
		2. 2 次方程式の解 (1.5)	2 次方程式の解が虚数になる場合もあることに興味を示し、2 次方程式の解を考察しようとする。〔関〕	例 8, 9 練習 9, 10
			2 次方程式の解の公式を利用して、2 次方程式を解くことができる。〔知〕	例 9 練習 10
			判別式を利用して、2 次方程式の解の種類を判別することができる。〔知〕	例題 2, 3 練習 11, 12
			判別式 $D$ の代わりに $D/4$ を用いても解の種類を判別できることを理解し、積極的に用いようとする。〔考〕〔関〕	例題 2 練習 11
		3. 解と係数の関係 (4)	解と係数の関係を使って、対称式の値や 2 次方程式の係数を求めることができる。〔知〕	例 10 例題 4, 5 練習 13~15
			対称式を基本対称式で表して、式の値を求めることができる。〔技〕〔知〕	例題 4 練習 14
			2 次式を複素数の範囲で因数分解することに興味をもち、問題に取り組もうとする。〔関〕	例題 6 練習 16
			2 次方程式の解を利用して、2 次式を因数分解できる。〔知〕	例題 6 練習 16

		与えられた2数を解にもつ2次方程式が1つには定まらないことを理解している。[技]	例 11 応用例題 1 練習 17, 19
		2 数を解とする 2 次方程式を作ることができる。[知]	例 11 応用例題 1 練習 17, 19
		和と積が与えられた 2 数を, 2 次方程式を解くことにより求めることができる。[知]	例 12 練習 18
		異なる 2 つの実数 $\alpha, \beta$ が正の数, 負の数, 異符号であることを, 同値な式で表現できる。[技]	p. 48
		2 次方程式の解の符号と, 係数の符号の関係を理解している。[知]	p. 48, 49
		2 次方程式の解の符号に関する問題を, 解と係数の関係を利用して解くことができる。[技]	応用例題 2 練習 20
	問題 (1)		p. 50
	<b>第 2 節 高次方程式 (4. 5)</b>		
	4. 剰余の定理と因数定理 (2)	整式を 1 次式で割ったときの余りについて, 剰余の定理で考察することができる。[考]	例 13, 例題 7 練習 21~23
	<b>研究</b> 組立除法	剰余の定理を利用して, 整式を 1 次式や 2 次式で割ったときの余りを求めることができる。[知]	応用例題 3 練習 24
		整式 $P(x)$ が $x-k$ で割り切れることを式で表現することができる。[考]	p. 53 例 14, 練習 25
		$P(k)=0$ である $k$ の値の見つけ方を理解し, 高次式を因数分解できる。[技] [知]	例 15 練習 26
		整式を 1 次式で割る計算に, 組立除法を積極的に利用する。[関]	p. 54 (研究) 例 1, 練習 1
	5. 高次方程式 (1. 5)	1 の 3 乗根の性質に興味・関心をもち, 具体的な問題に取り組もうとする。[関]	p. 55
		高次方程式を 1 次方程式や 2 次方程式に帰着させることができる。[考]	例題 8~10 練習 27~29
		因数分解や因数定理を利用して, 高次方程式を解くことができる。[知]	例題 8~10 練習 27~29
		高次方程式の 2 重解, 3 重解の意味を理解している。[知]	p. 57
		高次方程式が解 $\alpha$ をもつことを, 式を用いて表現できる。[技]	応用例題 4 練習 30
		高次方程式の虚数解から, 方程式の係数を決定することができる。[知]	応用例題 4 練習 30
		高次方程式が虚数解 $a+bi$ を解にもてば, $a-bi$ も解にもつことを利用できる。[技]	p. 57
	<b>発展</b> 3 次方程式の解と係数の関係		p. 58
	問題 (1)		p. 59
	章末問題 (1)		p. 60
6 月	<b>第 3 章 図形と方程式 (26)</b>	<b>第 1 節 点と直線 (10)</b>	
	座標や式を用いて, 直線や円などの基本的な平面図形の性質や関係を数学的に表現し, その有用性を認識するとともに, 事象の考察に活用できるようにする。	1. 直線上の点 (1. 5)	線分の内分点, 外分点の公式を統一してとらえようとする。[考]
			線分の外分点の公式を適用する際に, 分母を正にして計算しようとする。[技]
			数直線上において, 2 点間の距離, 線分の内分点, 外分点の座標が求められる。[知]
		2. 平面上の点 (2. 5)	座標平面上において, 2 点間の距離が求められる。[知]
			図形の問題を座標平面上で代数的に解決する解法のよさを知ろうとする。[関]
			図形の性質を証明する際に, 計算が簡単になるように座標軸を適切に設定できる。[考]
			座標平面上において, 線分の内分点, 外分点の座標が求められる。[知]
			p. 63, 64
			例 2 練習 3
			例 1, 2 練習 1~3
			例 3, 例題 1 練習 4, 5
			応用例題 1 練習 6
			応用例題 1 練習 6
			例 4 練習 7

数学Ⅱ・B シラバス

	点の座標を求めるのに、図形の性質を適切に利用できる。[考]	例題 2 練習 8
	図形的条件(点对称など)を式で表現できる。[技]	例題 2 練習 8
	三角形の重心の座標の公式を理解している。[知]	練習 10
3. 直線の方程式 (2)	直線が $x, y$ の 1 次方程式で表されることを理解している。[考]	例 5, 練習 11 p. 71
	$x$ 軸に垂直な直線は $y=mx+n$ の形に表せないことを理解している。[技]	p. 71
	与えられた条件を満たす直線の方程式の求め方を理解している。[知]	例 6, 7 練習 12, 13
	切片形の公式を利用して、直線の方程式を求めようとする。[関]	練習 14
4. 2 直線の関係 (3)	2 直線の平行・垂直条件を理解していて、それを利用できる。[知]	例題 4 練習 16, 17
<b>研究</b> 2 直線の交点を通る直線	ある点を通り与えられた直線に平行な直線, 垂直な直線の方程式を公式化し, 利用しようとする。[関]	p. 74 脚注
	直線に関して対称な点の座標を求めることができる。[知]	応用例題 2 練習 18
	図形的条件(線対称など)を式で表現できる。[技]	応用例題 2 練習 18
	図形 $F(x, y)=0$ が点 $(s, t)$ を通ることを $F(s, t)=0$ として処理できる。[技]	応用例題 2 練習 18
	点と直線の距離の公式を理解していて、それを利用できる。[知]	例 9 練習 19, 20
	2 直線の交点を通る直線の方程式に興味・関心をもち, 具体的な問題に利用しようとする。[関]	p. 78 (研究) 例 1, 練習 1
	$kF(x, y)+G(x, y)=0$ の形を利用して, 直線の方程式を求めることができる。[技]	p. 78 (研究) 例 1, 練習 1
問題 (1)		p. 79
<b>第 2 節 円 (8)</b>		
5. 円の方程式 (2)	円の方程式が $x, y$ の 2 次方程式で表されることを理解している。[考]	p. 80, 81
	与えられた条件を満たす円の方程式の求め方を理解している。[知]	例 10, 11 練習 21~23
	$x, y$ の 2 次方程式を変形して, その方程式が表す図形を調べることができる。[技] [知]	例 12 練習 24
	$x, y$ の 2 次方程式が, 常に円を表すとは限らないことを考察しようとする。[関]	p. 81
	図形 $F(x, y)=0$ が点 $(s, t)$ を通ることを $F(s, t)=0$ として処理できる。[技]	例題 5 練習 25
	3 点を通る円はこの 3 点を頂点とする三角形の外接円であることを理解している。[考]	p. 82
	3 点を通る円の方程式を求めることができる。[知]	例題 5 練習 25
6. 円と直線 (3)	円と直線の共有点の座標を求めることができる。[知]	例題 6 練習 26
	1 次と 2 次の連立方程式では, 計算しやすい方の文字を消去する。[技]	例題 6 練習 26
	円と直線の共有点の個数を, 2 次方程式の実数解の個数で考察することができる。[考]	例題 7 練習 27
	円の中心から直線までの距離と円の半径の大小関係を代数的に処理することで, 円と直線の位置関係を考えることができる。[考] [知]	例題 8 練習 28
	円と直線の位置関係を, 適切な方法で調べることができる。[技] [知]	p. 84, 85
	円の接線の公式を理解していて, それを利用できる。[知]	例 13 応用例題 3 練習 29, 30

		円外の点から引いた接線の方程式を求めることができる。[知]	応用例題3 練習30
	7. 2つの円 (2)	2つの円の位置関係を, 中心間の距離と半径の関係で考察することができる。[考]	p. 88
	<b>研究</b> 2つの円の交点を通る図形	2つの円の位置関係を, 中心間の距離と半径の関係から調べることができる。[知]	p. 89 練習31
		2つの円の位置関係と, 中心間の距離と半径の関係から, 円の方程式を求めることができる。[知]	例題9 練習32
		2つの円の共有点の座標を求める際に, 適切な方法で文字を消去することができる。[技] [知]	応用例題4 練習33
		2つの円の交点を通る円の方程式に興味・関心をもち, 具体的な問題に利用しようとする。[関]	p. 91 (研究) 例1, 練習1
		$kF(x, y) + G(x, y) = 0$ の形を利用して, 円や直線の方程式を求めることができる。[技]	p. 91 (研究) 例1, 練習1
	問題 (1)		p. 92
	<b>第3節 軌跡と領域 (6)</b>		
	8. 軌跡と方程式 (2)	平面上の点の軌跡を, 座標平面を利用して考察することができる。[考]	p. 93~95
		軌跡を求めるには, 逆についても調べる必要があることを理解している。[考]	p. 93~95
		点が満たす条件から得られた方程式を, 図形として考察することができる。[技]	p. 93~95
		軌跡の定義を理解し, 与えられた条件を満たす点の軌跡を求めることができる。[知]	例14 例題10 練習35, 36
		媒介変数処理が必要な軌跡の求め方を理解している。[知]	応用例題5 練習36
	9. 不等式の表す領域 (3)	不等式の満たす解を, 座標平面上の点の集合としてみる可以尝试。[考]	p. 96~98
	<b>研究</b> 放物線を境界線とする領域	不等式の表す領域を図示することができる。[知]	例15~17 練習37, 38
		連立不等式の表す領域を図示することができる。[知]	例18 例題11 練習39
		正領域, 負領域の考えを理解して利用することができる。[技]	応用例題6 練習40
		線形計画法では $(x, y)$ の1次式 $=k$ とおいて, この式が直線を表すことを利用できる。[技]	応用例題7 練習41
		領域を利用する1次式の最大値・最小値の求め方を理解している。[知]	応用例題7 練習41
		不等式を含む命題を, 不等式の表す領域を用いて証明することに興味・関心をもつ。[関]	p. 102
		条件の真理集合を考えることにより, 命題の真偽を真理集合の包含関係として考察することができる。[考]	応用例題8 練習42
		領域を利用して, 命題を証明することができる。[知]	応用例題8 練習42
		放物線を境界線とする領域に関心をもち, 考察しようとする。[関]	p. 103 (研究) 例1, 練習1
	問題 (1)		p. 104
	章末問題 (2)		p. 105, 106
	<b>第4章 三角関数 (22)</b>		
	<b>第1節 三角関数 (12)</b>		
	1. 角の拡張 (2)	一般角を動径とともに考察することができる。[考]	p. 108, 109
		一般角を表す動径を図示したり, 動径の表す角を $\alpha + 360^\circ \times n$ と表すことができる。[知]	例1 練習1, 2
		弧度法に興味をもち, 角度の換算に取り組もうとする。[関]	p. 110 練習4
		弧の長さで角を測る方法として, 弧度法を考察することができる。[考]	p. 110
7月	角の概念を一般角まで拡張して, 三角関数及び三角関数の加法定理について理解し, それ		

2 9  
学 月  
期

ら	を事象の考察に活用できるようにする。	角度の表し方に度数法と弧度法があることを理解している。[技]	p. 110 練習 4
		弧度法の定義を理解し、度数法と弧度法の換算をすることができる。[知]	p. 110 練習 4
		扇形の弧の長さや面積を求める際に、中心角が弧度法であることを理解している。[技]	例 2 練習 5
		扇形の弧の長さや面積の公式を理解している。[知]	例 2 練習 5
	2. 三角関数 (2)	三角比の定義を、三角関数の定義に一般化することができる。[考]	p. 112
		弧度法で表された角の三角関数の値を、三角関数の定義によって求めることができる。[知]	例 3 練習 6
		単位円上の点の座標を、三角関数を用いて表すことができる。[技]	p. 113
		三角関数の相互関係を理解し、それらを利用して様々な値を求めたり、式変形をすることができる。[知]	例題 1~3 練習 8~11
	3. 三角関数のグラフ (3)	単位円上の点の動きから、三角関数のグラフを考えることができる。[考]	p. 116~118
		$y = \sin \theta$ と $y = \cos \theta$ のグラフが同じ形の曲線であることに興味・関心をもつ。[関]	p. 116
		周期関数に興味をもち、その性質を調べようとする。[関]	p. 117
		いろいろな三角関数のグラフのかき方や周期の求め方を理解している。[知]	例 4~6 練習 12~14
		$y = \sin(k\theta + \alpha)$ の形の関数の式を適切に変形して、グラフや周期を考察することができる。[技]	例題 4 練習 15
	4. 三角関数の性質 (1)	三角関数の性質とグラフの特徴を相互に理解している。[知]	p. 122
		三角関数の性質を、グラフの特徴とともに考察することができる。[考]	p. 122
		三角関数の性質を、単位円を用いて考察することができる。[考]	p. 123
		$\theta + 2n\pi$ や $-\theta$ などの公式を理解し、それらを用いて三角関数の値を求めることができる。[知]	例 7, 8 練習 16
	5. 三角関数の応用 (3)	三角関数を含む方程式・不等式を解く際に単位円やグラフを図示して考察することができる。また、その解き方を理解している。[考] [知]	例 9, 10 例題 5, 6 練習 17~19 練習 21, 22
		変数をおき換えることで、三角関数を含む方程式を考察することができる。また、その解き方を理解している。[考] [知]	応用例題 1 練習 20
		変数をおき換えることで、三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察することができる。[考]	応用例題 2 練習 23
		$-1 \leq \sin \theta \leq 1$ などに注意して、おき換えによって三角関数を含む関数の最大値・最小値を考察できる。[技]	応用例題 2 練習 23
三角関数を含む関数の最大値・最小値を求めることができる。[知]		応用例題 2 練習 23	
問題 (1)		p. 129	
第 2 節 加法定理 (8)			
研究 加法定理と点の回転	6. 加法定理 (3)	加法定理を利用して、種々の三角関数の値を求めることができる。[技] [知]	例 11, 12 例題 7 練習 24~28
		角を弧度法で表した場合にも、加法定理が適用できる。[考]	練習 25, 28
		正接の定義と加法定理を利用して、2 直線のなす角を考察することができる。[考]	p. 134

中間  
考  
査

数学Ⅱ・B シラバス

		正接の加法定理を利用して、2直線のなす鋭角を求めることができる。[知]	例題8 練習29
		加法定理を利用して、座標平面上の点の回転を考察することに関心を持ち、具体的な問題に取り組もうとする。[関]	p.135 (研究) 例1, 練習1
	7. 加法定理の応用 (4)	2倍角, 半角の公式を利用して、三角関数の値を求めることができる。[知]	例13, 14 練習30, 32, 33
		2倍角の公式を利用して、等式を証明することができる。[知]	練習31
		2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式の角を統一して考えることができる。[考]	応用例題3 練習34
		2倍角の公式を利用して、三角関数を含むやや複雑な方程式・不等式を解くことができる。[技] [知]	応用例題3 練習34
		$a\sin\theta + b\cos\theta$ を $r\sin(\theta + \alpha)$ の形に変形する方法 (三角関数の合成) を理解している。[知]	例15 練習35
		$x$ の関数 $y = a\sin x + b\cos x$ の式を変形して、関数の最大値・最小値を求めることができる。[技] [知]	例題9 練習36
		同じ周期をもつ2つの関数 $y = \sin x$ と $y = \cos x$ を合成すると、そのグラフは位相がずれた正弦曲線になることに興味・関心をもつ。[関]	p.140
		合成後の変数のとる値の範囲に注意して、 $a\sin x + b\cos x = k$ の形の方程式を解くことができる。[技] [知]	応用例題4 練習37
	<b>発展</b> 和と積の公式		p.142
	問題 (1)		p.143
	章末問題 (2)		p.144, 145
	コラム 円筒の切り口に現れる曲線	【レポート】 円筒の切り口に現れる曲線がサインカーブになることについて興味を持ち、考察しようとする。[関]	p.146
10月	<b>第5章 指数関数と対数関数 (14)</b>  指数関数及び対数関数について理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。	<b>第1節 指数関数 (5)</b>  1. 指数の拡張 (2)  <b>研究</b> 負の指数のn乗根	
		指数法則が成り立つように、指数の範囲を正の整数から実数にまで拡張していることを理解している。[考]	p.148~153
		$a^m \div a^n$ を $a^m \times a^{-n}$ として処理することができる。[技]	例2 練習2
		指数が整数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。[知]	例1, 2 練習1, 2
		累乗根をグラフによって考察することができる。[考]	p.150
		累乗根の性質に興味を示し、具体的に証明しようとする。[関]	p.151
		累乗根の定義を理解し、累乗根の計算ができる。[知]	例5 練習4
		指数が有理数の場合の累乗の定義を理解し、累乗の計算や、指数法則を利用した計算をすることができる。[知]	例6, 7 例題1 練習5, 6
		累乗根を含む計算では、分数指数を利用して計算をすることができる。[技]	例題1 練習6
		指数が無理数の場合の累乗の意味を理解することができる。[知]	p.153
		負の数のn乗根に興味を示し、具体的に理解しようとする。[関]	p.153 研究
	2. 指数関数 (2.5)	指数関数のグラフの概形を、点をプロットしてかこうとする意欲がある。[関]	p.154, 155



		指数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 [知]	p. 155 練習 8		
		指数関数 $y=a^x$ のグラフが定点(0, 1)を通ることを理解している。[考]	p. 155 練習 8		
		指数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。[考]	例題 2~4 練習 9~11		
		底と 1 の大小に注意して，指数関数を含む不等式を解くことができる。[知]	例題 4 練習 11		
		$a^x > 0$ に注意して，おき換えによって指数方程式・指数不等式を解くことができる。[技]	応用例題 1 練習 12, 13		
	問題 (0.5)		p. 159		
	<b>第 2 節 対数関数 (7)</b>				
	3. 対数とその性質 (2)	対数 $\log_a M$ が $M=a^p$ を満たす指数 $p$ を表していることを理解している。[考]	例 8~10 練習 14~17		
		指数と対数とを相互に書き換えることができる。[技]	例 9 練習 15, 16		
		対数の定義を理解し，対数の値を求めることができる。[知]	例 10 練習 17		
		対数の性質に基づいた種々の対数の値の計算ができる。[知]	例 11 練習 19		
		底の変換公式を等式として利用できる。[技]	例 12 練習 20		
	4. 対数関数 (2.5)	対数と指数の関係から，両者のグラフが互いに直線 $y=x$ に関して対称であるという見方ができる。[考]	p. 164		
		対数関数のグラフの概形，特徴を理解している。 [知]	p. 165 練習 21		
		対数関数 $y=\log_a x$ のグラフが定点(1, 0)を通ることを理解している。[考]	p. 165 練習 21		
		対数関数の増減によって，大小関係や方程式・不等式を考察することができる。[考]	例題 5, 6 練習 22, 23		
		底と 1 の大小に注意して，対数関数を含む不等式を解くことができる。[知]	例題 6 練習 23		
		対数の性質を用いる際に，真数が正であることに着目できる。[技]	応用例題 2, 3 練習 24, 25		
		やや複雑な対数方程式，対数不等式に積極的に取り組もうとする。[関]	応用例題 2, 3 練習 24, 25		
		おき換えによって関数の最大・最小問題を解くことができる。[技]	応用例題 4 練習 26		
	5. 常用対数 (2)	正の数を $a \times 10^n$ の形に表現して，対数の値を求めることができる。[技]	例 13 練習 27		
		常用対数の定義を理解し，それに基づいて種々の値を求めることができる。[知]	例 13 練習 27		
		$n$ 桁の数，小数首位が第 $n$ 位の数を，不等式で表現することができる。[技]	p. 170, 171		
		常用対数を利用して，桁数の問題や小数首位問題などを解くことができる。[知]	例題 7, 8 応用例題 5 練習 28~30		
	問題 (0.5)		p. 172		
	章末問題 (2)		p. 173, 174		
11 月	<b>第 6 章 微分法と積分法 (28)</b>  微分・積分の考え について理解し， それらの有用性を 認識するととも	<b>第 1 節 微分係数と導関数 (7)</b>			
		1. 微分係数 (2)	平均変化率における $x$ の変化量 $h$ は負でもよいことを理解している。[考]	p. 177	
			極限値を計算して微分係数を求めるとき，分母の $h$ は 0 でないことを理解している。[技]	p. 177, 178	
			平均変化率，微分係数の定義を理解し，それらを求めることができる。[知]	例 1, 3 練習 1, 3	
			微分係数の図形的意味を理解している。[知]	p. 178, 179	

中間  
考  
査

数学Ⅱ・B シラバス

に、事象の考察に活用できるようにする。	2. 導関数とその計算 (3)	導関数を表す種々の記号を理解していて、それらを適切に使うことができる。〔考〕	p. 180～185
	研究 関数 $x^n$ の導関数	定義に基づいて導関数を求める方法を理解している。〔知〕	例 5, 6 練習 5
		導関数の性質を利用して、種々の導関数の計算ができる。〔知〕	例 7, 例題 1 練習 7, 8
		導関数を利用して微分係数が求められることを理解している。〔技〕	例題 2 練習 9
		微分係数の値などから関数を決定することができる。〔知〕	例題 3 練習 10
		変数が $x, y$ 以外の関数について、導関数が求められる。〔知〕	例 8 練習 11, 12
		関数 $x^n$ の導関数について、二項定理を用いた証明に興味をもち、考察しようとする。〔関〕	p. 185 研究
		3. 接線の方程式 (1)	接点の $x$ 座標が与えられたとき、接線の方程式を求めることができる。〔技〕
		接線の方程式の公式を利用して、接線の方程式を求めることができる。〔知〕	例題 4 練習 13
		定点 $C$ から曲線に接線を引くとき、接点 $A$ における接線が点 $C$ を通ると読み替えることができる。〔考〕	応用例題 1 練習 14
	曲線外の点から曲線に引いた接線の方程式の求め方を理解している。〔知〕	応用例題 1 練習 14	
問題 (1)		p. 188	
第 2 節 関数の値の変化 (8)			
4. 関数の増減と極大・極小 (3.5)	接線の傾きで関数の増減が調べられることを理解している。〔考〕	p. 189, 190	
	導関数を利用して、関数の増減を調べることができる。〔知〕	例 9～11 練習 15	
	関数の増減や極値を調べるのに、増減表を書いて考察している。〔技〕	p. 190～193	
	導関数を利用して、関数の極値を求めたり、グラフをかくことができる。〔知〕	例 12, 例題 5 応用例題 2 練習 16, 17	
	関数の増減や極値を調べ、3 次関数のグラフ、4 次関数のグラフをできるだけ正しくかこうとする。〔関〕	例題 5 応用例題 2 練習 16, 17	
	$f'(a) = 0$ は、 $f(a)$ が極値であるための必要条件ではあるが、十分条件ではないことを理解している。〔知〕	応用例題 3 練習 18	
	関数の極値から関数を決定する際に、必要十分条件に注意している。〔技〕	応用例題 3 練習 18	
	関数の極値が与えられたとき、関数を決定することができる。〔知〕	応用例題 3 練習 18	
5. 関数の増減・グラフの応用 (3.5)	最大値・最小値と極大値・極小値との違いを、意識して考察できる。〔考〕	p. 195	
	導関数を利用して、関数の最大値・最小値を求めることができる。〔知〕	例題 6 練習 19	
	最大・最小の応用問題では、変数のとり方、定義域に注意している。〔技〕	応用例題 4 練習 20	
	導関数を利用して、最大値・最小値の応用問題を解くことができる。〔知〕	応用例題 4 練習 20	
	方程式の実数解の個数を、関数のグラフと $x$ 軸の共有点の個数に読み替えて考察できる。〔考〕〔技〕	例題 7 応用例題 5 練習 21, 22	
	不等式を、関数のグラフと $x$ 軸との上下関係に読み替えて考察できる。〔考〕	応用例題 6 練習 23	
	不等式 $f(x) \geq 0$ を、関数 $y = f(x)$ の最小値が 0 以上と読み替えることができる。〔技〕	応用例題 6 練習 23	

数学Ⅱ・B シラバス

12月

		方程式や不等式を関数的視点で捉え、微分法を利用して解決しようとする。〔関〕	例題 7 応用例題 5, 6 練習 21～23
		導関数を利用して、方程式の実数解の個数問題、不等式の証明問題を解くことができる。〔知〕	例題 7 応用例題 5, 6 練習 21～23
	問題 (1)		p. 200
	<b>第 3 節 積分法 (11)</b>		
	6. 不定積分 (2)	不定積分の計算では、積分定数を書き漏らさずに示すことができる。〔技〕	p. 202～204
		不定積分の定義や性質を理解し、それを利用する不定積分の計算方法を理解している。〔知〕	例 15, 例題 8 練習 26, 27
		与えられた条件を満たす関数を、不定積分を利用して求めることができる。〔知〕	応用例題 7 練習 28
	7. 定積分 (3)	定積分の定義や性質を理解し、それを利用する定積分の計算方法を理解している。〔知〕	例 16～19 例題 9 練習 29～32, 34
		定積分の性質の等式を、左辺から右辺、右辺から左辺への変形として利用できる。〔考〕	例 17, 18 練習 31, 32
		定積分は定数であることを理解し、それを利用して、定積分を含む関数を求めることができる。〔知〕	応用例題 8 練習 35
		上端が $x$ である定積分を、 $x$ の関数とみることができる。〔考〕	p. 210
		上端が変数 $x$ である定積分で表された関数を微分して処理することができる。〔知〕	応用例題 9 練習 37
		面積 $S(x)$ が関数 $f(x)$ の原始関数の 1 つであることに興味・関心を持ち、考察しようとする。〔関〕	p. 211, 212
	<b>研究</b> 曲線と接線で囲まれた部分の面積  <b>研究</b> 放物線と $x$ 軸で囲まれた部分の面積	面積を求める際には、グラフの上下関係、積分範囲などを図をかくて考察している。〔技〕	例題 10～12 例 20 練習 38～40
		直線や曲線で囲まれた部分の面積を、定積分で表して求めることができる。〔知〕	例題 10～12 例 20 練習 38～40
		図形の対称性に着目した面積計算をすることができる。〔技〕	例題 11
		上下関係が入れ替わる 2 つの曲線で囲まれた面積を求めることができる。〔知〕	例題 13 練習 41
		絶対値のついた関数の定積分の計算方法を理解している。〔知〕	例題 14 練習 42
		3 次曲線とその接線で囲まれた部分の面積を求めることができる。〔知〕	p. 219 (研究) 例 1, 練習 1
		放物線と $x$ 軸の交点の座標が複雑な値であるとき、放物線と $x$ 軸で囲まれた部分の面積を、定積分の公式を利用してうまく求める方法を理解する。〔知〕	p. 220 (研究) 例 1, 練習 1
	問題 (1)		p. 221
	章末問題 (2)		p. 222, 223

期末  
考  
査

数学 B

3 学  
期 1 月

第 3 章 数列 (25)	第 1 節 等差数列と等比数列 (10)		
	1 数列と一般項 (1)	数列の定義、表記について理解している。〔知〕	p. 72, 73
		数の並び方に興味を持ち、その規則性を発見しようとする意欲がある。〔関〕	p. 72, 73
数列に関する用語、記号を適切に用いることができる。〔技〕		p. 72, 73	
簡単な数列とその和および漸化式と数学的帰納法につ			

数学Ⅱ・B シラバス

2月	いて理解し、それらを事象の考察に活用できるようにする。		数の並び方からその規則性を推定して、数列の一般項を考察できる。〔考〕	例2 練習3	期末 考 査
			1つの数列から別の数列を作ることができる。〔技〕	例2 練習3	
		2 等差数列 (2)	等差数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔考〕	例3 練習4,5	
			等差数列の公差、一般項などを理解している。〔知〕	例4, 例題2 練習6,8	
			初項と公差を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。〔技〕	例題1 練習7	
			等差中項の性質に興味をもち、問題解決に取り組もうとする。〔関〕	例題3, 補足 練習9	
		3 等差数列の和 (2)	等差数列の和の公式を適切に利用して、数列の和が求められる。〔技〕〔知〕	例5, 例題4 練習10~12	
			自然数の和、奇数の和、倍数の和などが求められる。〔知〕	例6 練習13	
			等差数列の和の公式を利用して、和の最大値などを求めることができる。〔技〕	応用例題1 練習14	
		4 等比数列 (2)	等比数列の項を書き並べて、隣接する項の関係が考察できる。〔考〕	例7 練習15,16	
			等比数列の公比、一般項などを理解している。〔知〕	例8 練習17,18	
			初項と公比を文字で表して、条件から数列の一般項を決定できる。〔技〕	例題5 練習19	
			等比中項の性質に興味をもち、問題解決に利用しようとする。〔関〕	例題6, 補足 練習20	
		5 等比数列の和 (2)	等比数列の和の公式を、適切に利用して数列の和が求められる。〔技〕〔知〕	例題7 練習21	
			等比数列の和の値から数列の一般項を求めることができる。〔技〕	応用例題2 練習22	
複利計算に興味・関心をもち、具体的な問題に取り組もうとする。〔関〕	p.85 研究				
問題 (1)		p.86			
第2節 いろいろな数列 (6)					
6 和の記号 $\Sigma$ (1.5)	自然数の2乗の和や3乗の和の公式を求めようとする意欲がある。〔関〕	p.87 練習23			
	記号 $\Sigma$ の意味と性質を理解し、数列の和が求められる。〔技〕〔知〕	例10~13 練習25~28			
	数列の和を記号 $\Sigma$ で表して、和の計算を簡単に行うことができる。〔考〕	例題8 練習29			
	第k項をkの式で表して、初項から第n項までの和が求められる。〔技〕	例題8 練習29			
7 階差数列 (2)	数列の規則性の発見に階差数列が利用できる。〔考〕	例14 練習30			
	階差数列を利用して、もとの数列の一般項が求められる。〔知〕	例題9 練習31			
	初項から第n項までの和に着目して、一般項を考察できる。〔考〕	p.93			
	数列の和 $S_n$ と第n項 $a_n$ の関係を理解し、数列の一般項が求められる。〔知〕	例題10 練習32			
	階差数列利用、和 $S_n$ 利用では、初項の扱いに注意して一般項が求められる。〔技〕	例題9,10 練習31,32			
8 いろいろな数列の和 (1.5)	$f(k+1) - f(k)$ を用いる和の求め方に興味をもち、具体的な問題に活用しようとする。〔関〕	応用例題3 練習33			
	和の求め方の工夫をして、数列の和が求められる。〔技〕〔知〕	応用例題3,4 練習33,34			
	群数列に興味をもち、考察しようとする。〔関〕	応用例題5 練習35			
	群数列を理解し、ある特定の群に属する数の和が求められる。〔考〕	応用例題5 練習35			

	問題 (1)		p. 96
	<b>第 3 節 漸化式と数学的帰納法 (7)</b>		
	9 漸化式 (3)	初項と漸化式を用いて数列を定義できることを理解している。[考]	例 15 練習 36
	<b>研究</b> $a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列	漸化式の意味を理解し、具体的に項が求められる。[知]	例 15 練習 36
	<b>研究</b> 図形と漸化式	漸化式を適切に変形して、その数列の特徴を考察することができる。[技]	p. 98, 例題 11 練習 37, 38
		おき換えや工夫を要する複雑な漸化式について、考察しようとする。[関]	p. 99 例題 12 練習 39, 40
		おき換えを利用して、漸化式から一般項を求めることができる。[技]	例題 12 練習 40
		初項と漸化式から数列の一般項が求められる。[知]	例題 11, 12 練習 38, 40
		$a_{n+1}=pa_n+q$ を満たす数列の階差数列について、具体的に考察しようとする。[関]	p. 100 研究
		与えられた条件から $a_n$ と $a_{n+1}$ の間に成り立つ漸化式を求めることができる。[知]	p. 101 (研究) 例 1, 練習 1
	<b>発展</b> 隣接 3 項間の漸化式		p. 102, 103
	10 数学的帰納法 (3)	数学的帰納法を利用して、いろいろな事柄を積極的に証明しようとする。[関]	例題 13 応用例題 6 練習 41, 42
		自然数 $n$ に関する命題の証明には、数学的帰納法が有効なことを理解している。[考]	例題 13 応用例題 6 練習 41, 42
		数学的帰納法を用いて等式、不等式を証明できる。[知]	例題 13 応用例題 6 練習 41, 42
		$n \geq k$ の場合に成り立つ不等式を、数学的帰納法を用いて証明できる。[技]	応用例題 6 練習 42
	問題 (1)		p. 107
	章末問題 (2)		p. 108, 109
	コラム フィボナッチ数列	<b>【レポート】</b> フィボナッチ数列に興味・関心を示し、自ら調べようとする。[関]	p. 110
	<b>第 1 章 平面上のベクトル (21)</b>		
ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	<b>第 1 節 ベクトルとその演算 (10)</b>		
	1 ベクトル (1)	ベクトルの向き、相等について理解している。[知]	例 1 練習 1
	2 ベクトルの演算 (3)	和や差における逆ベクトル、零ベクトルの役割を理解している。[考]	p. 8~10
		ベクトルの加法、減法、実数倍の計算の仕組みを理解している。[知]	p. 8~11
		有向線分で表されたベクトルについて、和、差、実数倍を考察できる。[知]	練習 2, 5, 7
		ベクトルの演算に興味をもち、数式の演算法則との類似点を考察しようとする。[関]	p. 8~12 例 4, 練習 8
		1 つのベクトルと同じ向きの単位ベクトルを式で表現して利用できる。[技]	例 5 練習 9
		有向線分で表されたベクトルを、2 つのベクトルの和、差に表現できる。[技]	例題 1 練習 10
	3 ベクトルの成分 (2)	成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。[知]	例 6, 7 練習 11, 12
		成分表示されたベクトルを、2 つのベクトルの和、差に表現できる。[技]	例題 2 練習 13
		成分表示された 2 つのベクトルの平行条件を理解し、計算に利用できる。[知]	例題 3 練習 14
		座標平面上の点とベクトルの成分の関係について理解している。[知]	例 8 練習 15

		図形の性質をベクトルで表現して扱うことができる。[技]	例題 4 練習 16
4 ベクトルの内積 (3)		ベクトルの内積のもつ図形的な意味を探ろうとする。[関]	p. 19
研究 三角形の面積		内積は実数であることを理解している。[考]	p. 19~25
		ベクトルの大きさとなす角から、内積を求めることができる。[知]	例 9, 10 練習 17, 18
		成分表示されたベクトルについて、内積を求めることができる。[知]	例 11 練習 19
		ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。[知]	例 12 練習 20
		ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。[知]	例 13, 例題 5 練習 21~23
		内積の性質(計算法則)を理解し、計算に利用できる。[知]	例 14 練習 24
		内積でベクトルの大きさが考察できることを理解している。[考]	応用例題 1 練習 25
		ベクトルの大きさを内積におき換えて扱うことができる。[技]	応用例題 1 練習 25
		ベクトルの大きさと内積の関係式からベクトルのなす角を求めることができる。[知]	応用例題 2 練習 26
		三角形の面積が内積で表せることに興味・関心をもち、問題解決に利用しようとする。[関]	p. 26 (研究) 練習 1
問題 (1)		p. 27	
<b>第 2 節 ベクトルと平面図形 (9)</b>			
5 位置ベクトル (2)		線分の内分点, 外分点を位置ベクトルで表す公式を理解している。[知]	例 15 練習 28
		三角形の重心の位置ベクトルを表す公式を理解している。[知]	例題 6(1) 練習 29(1)
		ベクトルで表された等式を、位置ベクトルを用いて証明できる。[知]	例題 6(2) 練習 29(2)
6 ベクトルの図形への応用 (2.5)		位置ベクトルの一意性を理解し、図形の性質を証明できる。[考]	応用例題 3, 5 練習 30, 32
		図形上の頂点に関する位置ベクトルを定めて、図形を考察できる。[技]	応用例題 3, 5 練習 30, 32
		3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。[技]	応用例題 3 練習 30
		ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。[考]	応用例題 4 練習 31
		線分上の点を、線分を $s : (1-s)$ に内分する点として処理できる。[技]	応用例題 4 練習 31
		垂直条件をベクトルの内積で表現して考察できる。[技]	応用例題 5 練習 32
		図形の性質を、位置ベクトルを利用して証明できる。[知]	応用例題 5 練習 32
		メネラウス, チェバの両定理に興味をもち、ベクトルの問題に利用しようとする。[関]	前見返し裏
7 図形のベクトルによる表示 (3.5)		直線のベクトル方程式を理解している。[知]	p. 35, 36, 39
		直線のベクトル方程式の媒介変数処理ができる。[技]	例 16 練習 33
研究 点と直線の距離		直線上の点を位置ベクトルで考察し、直線のベクトル方程式と関連付けることができる。[考]	p. 35, 36, 39
		直線のベクトル方程式を積極的に活用しようとする。[関]	応用例題 6 練習 34, 35
		ベクトルを用いて円の性質を考察する意欲がある。[関]	p. 40
		円や円の接線のベクトル方程式を理解している。[知]	練習 37, 38

		問題 (1)		p. 42	未 考 査
		章末問題 (2)		p. 43, 44	
3 月	<b>第 2 章 空間のベクトル (14)</b>  ベクトルの基本的な概念について理解し、その有用性を認識するとともに、事象の考察に活用できるようにする。	1 空間の点 (1)	空間における図形を、図や座標を利用して示すことができる。[技]	p. 46, 47	
		2 空間のベクトル (1)	座標空間において、点の座標、原点との距離が求められる。[知]	例 1 練習 1, 2	
		空間のベクトルを平面上のベクトルの拡張としてとらえることができる。[考]	p. 48 例 2, 3 練習 3, 4		
		空間のベクトルを、与えられた 3 つのベクトルで表すことができる。[技]	例題 1 練習 5		
		平行六面体におけるベクトルを、和の形に表すことができる。[知]	例題 1 練習 5		
	3 ベクトルの成分 (2)	空間のベクトルの成分を座標空間と関連付けて考察できる。[考]	p. 51~53		
		成分表示されたベクトルの大きさ、和、差、実数倍の計算ができる。[知]	例 4 練習 7, 8		
		座標空間の点と空間のベクトルの成分の関係について理解している。[知]	例 5 練習 9		
	4 ベクトルの内積 (2)	ベクトルの内積を、平面から空間へ拡張して考察できる。[考]	p. 54		
		成分表示されたベクトルについて、内積を計算できる。[知]	例 6 練習 10		
		ベクトルのなす角を、内積を利用して求めることができる。[知]	例 6, 例題 2 練習 10, 11		
		ベクトルの垂直条件を理解し、計算に利用できる。[知]	例題 3 練習 12		
	5 ベクトルの図形への 応用 (3. 5)	ベクトルの諸性質が平面の場合と同じであることを理解して、それらを利用できる。[知]	p. 57 練習 13		
		四面体の重心に興味をもち、その性質を位置ベクトルで考察しようとする。[関]	練習 13		
		3 点が一直線上にあることをベクトルで表現して利用できる。[技]	応用例題 1 練習 14		
		空間において 3 点が一直線上にあるための条件を理解している。[知]	応用例題 1 練習 14		
		空間における図形を、1 つの頂点に関する位置ベクトルで考察できる。[考]	p. 58~62		
		3 点で定まる平面上の点の位置ベクトルを一般的に考察し、その結果を利用しようとする。[関]	p. 59~61		
		3 点で定まる平面上に点 P があることを、ベクトルで表現して利用できる。[技]	例題 4 応用例題 2 練習 15, 16		
		ベクトルの分解の一意性を理解し、計算に利用できる。[技]	例題 4 応用例題 2 練習 15, 16		
		ある点が 3 点で定まる平面上にあるための必要十分条件を理解し、それを利用することができる。[知]	例題 4 応用例題 2 練習 15, 16		
		内積を利用して、空間の図形の性質を証明できる。[知]	応用例題 3 練習 17		
	6 座標空間における図 形 (1. 5)	2 点間の距離の公式を理解している。[知]	p. 63 練習 18		
		空間ベクトルを利用して、線分の長さ、分点の座標などを考察できる。[考]	p. 63 練習 18, 19		
		座標空間における線分の内分点・外分点の座標が求められる。[知]	練習 18, 19		
		座標平面に平行な平面の方程式を理解している。[知]	p. 64 練習 20		
		球面の方程式に興味をもち、一般的な考察をしようとする。[関]	p. 65, 66		

数学Ⅱ・B シラバス

		いろいろな球面の方程式が求められる。〔知〕	例 7 練習 21
		球面と平面が交わってできる図形を, 連立方程式の解の集合として考察できる。〔考〕	応用例題 4 練習 22
		球面の方程式から, 中心, 半径を読み取ることができる。〔技〕	応用例題 4 練習 22
		座標平面に平行な平面と球面の交わりの方程式を求めることができる。〔知〕	応用例題 4 練習 22
	発展 平面の方程式		p. 66
	問題 (1)		p. 67
	章末問題 (2)		p. 68, 69
	コラム (発展) ベクトルの外積	【レポート】 ベクトルの外積に興味・関心を示し, 自ら調べようとする。〔関〕	p. 70



### 3 評価の観点と評価方法

#### 数学Ⅱ

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける考え方に関心をもつとともに，数学のよさを認識し，それらを事象の考察に活用して数学的な考え方に基づいて判断しようとする。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，数学的な見方や考え方を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおいて，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	いろいろな式，図形と方程式，指数関数・対数関数，三角関数及び微分・積分の考えにおける基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，基礎的な知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への取り組み</li> <li>・課題・提出物の状況</li> </ul> ノート，プリント，レポート等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・提出レポートの内容</li> <li>・提出ノートの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>

#### 数学B

	関心・意欲・態度	数学的な見方や考え方	数学的な技能	知識・理解
評価の観点	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測に関心をもつとともに，それらを事象の考察に活用して数学的論拠に基づいて判断しようとする。	事象を数学的に考察し表現したり，思考の過程を振り返り多面的・発展的に考えたりすることなどを通して，ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における数学的な見方や考え方を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測において，事象を数学的に表現・処理する仕方や推論の方法などの技能を身に付けている。	ベクトル，数列または確率分布と統計的な推測における基本的な概念，原理・法則などを体系的に理解し，知識を身に付けている。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習活動への取り組み</li> <li>・課題・提出物の状況</li> </ul> ノート，プリント，レポート等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・提出レポートの内容</li> <li>・提出ノートの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・小テスト</li> </ul>